



新年明けまして おめでとうございます



辰年
2012年

共汗でつくる新「京都市動物園構想」第2弾

僕たちの新居を
紹介します！

いよいよ今春オープン!! 「もうじゅうワールド」

ネコ科動物の4種を飼育展示します。トラを飼育展示する棟と、ライオンとジャガー、そしてツシマヤマネコを飼育展示する棟の2棟からなる施設です。



ジャガーとツシマヤマネコの屋外展示場には、観覧通路上部に張りだした部分を設け、下からも観察していただけます。



ライオンの屋外展示場にはガラス越しに見ていただける場所と、従来どおり檻越しに見ていただける場所を用意しています。屋内展示室は、いずれも強化ガラス越しの観察となります。



トラの3つの屋外展示場は、空中回廊で繋がり頭上を移動するトラを観察できるようになっています。近くで観察していただけるように、ガラス越しに観察できる場所を設け、さらに至近距離で動物たちの息遣いを感じていただけるように2枚網を採用し人止め柵を設けていない場所もつくりました。トラの施設には非公開の飼育場を備え、繁殖にも対応できるようになっています。

新たに仲間入りするツシマヤマネコは、ベンガルヤマネコの一亜種で、日本では長崎県の対馬にしか生息していない野生のネコのなかまです。



絶滅の恐れがある希少種で、環境省が主体となって取り組んでいる保護増殖事業の一環として展示を開始します。今回は、展示のために1頭が来園しますが、来年には非公開の繁殖施設を整備し、繁殖にも取り組むことになっています。

ツシマヤマネコのことや対馬のことをお伝えする場にしたいと考えています。

新「バク舎」も
今春オープンします!



まもなく 「アフリカの草原」着工!

平成25年春のオープンを目指し、まもなく工事が始まります。キリン、カバ、グレビーシマウマといったアフリカのサバンナで暮らしている大型草食獣を中心に、ミーアキャットやフェネック、フラミンゴ等を展示します。

「おとぎの国」から続く「木の遊歩道」からは、キリンやグレビーシマウマを観察することができる他、餌場等を工夫して間近で観察していただける場所を整備します。どうぞ御期待下さい。



動物園の『獣医のお仕事』

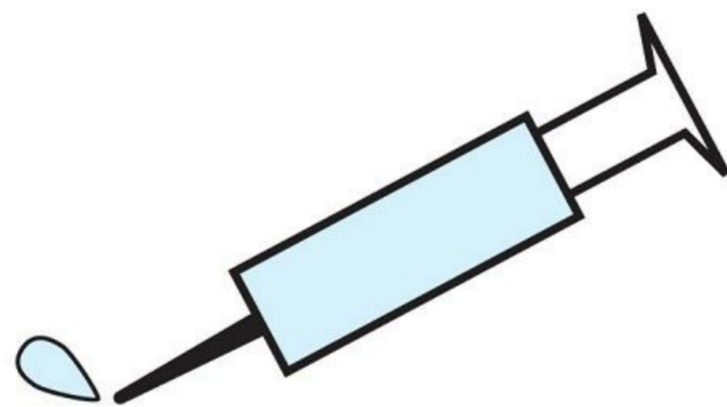
その1 朝の見まわり

朝、まずはじめに園内の動物たちを見てまわります。トラもどうしたんだろう？という表情で見えています。

毎日動物たちを観察していれば、病気になったり怪我をしている時に、普段とは様子が違うことに気付くことができます。見まわりのときは、特に動物が苦しそうでいないか、歩き方、ウンチの状態、餌の食べ具合などに異常がないかを確認します。毎日顔をあわせていると、最初は警戒していた動物も、次第にリラックスした表情を見せてくれます。



その2 治療



治療は小さい動物に関しては動物園の中の病院で行いますが、ゾウやトラなど体の大きい動物は、動物舎の中で治療を行います。病院の中央には動物をのせる台があります。その周りには動物を治療するための機械や道具があります。

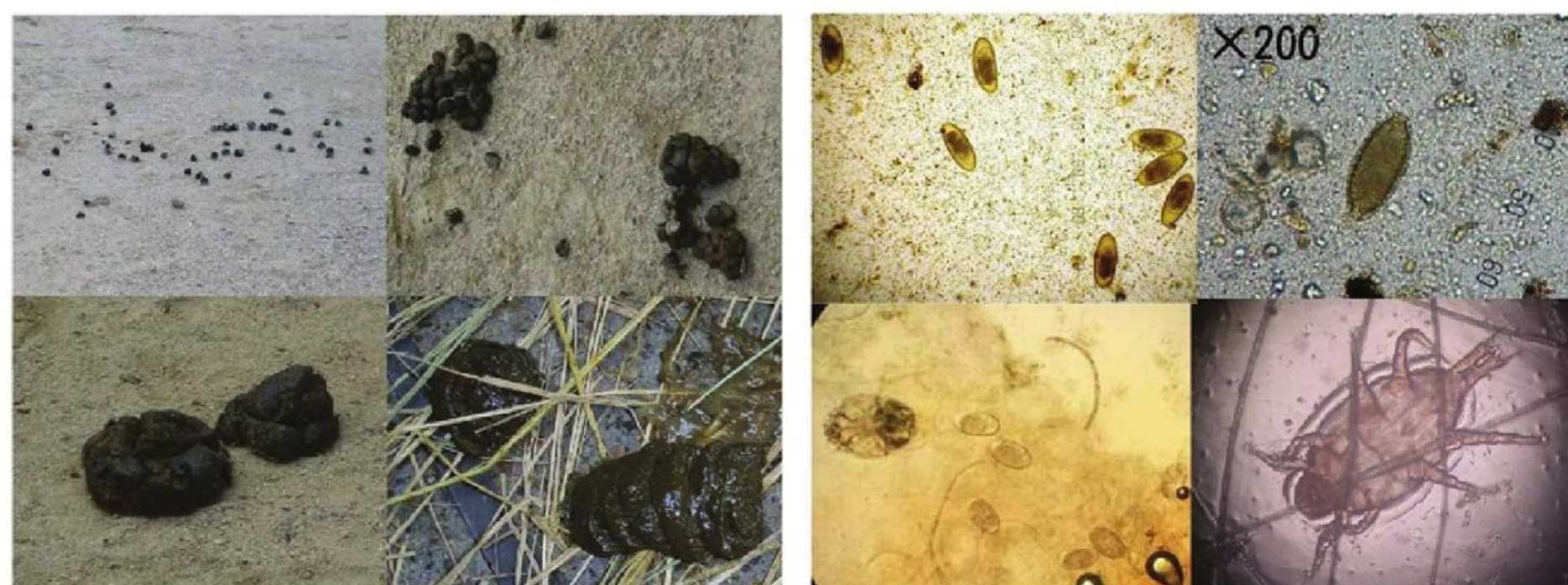


右の写真は、レッサーパンダを治療しているところです。この個体は、ひどいむし歯で餌を食べられない状態になっていました。むし歯を抜くための治療を行いました。痛くないように麻酔をかけて行いました。治療後、すぐには体調が回復しなかったため、1ヶ月ほど展示をお休みしましたが、その後元気な姿を見せてくれます。

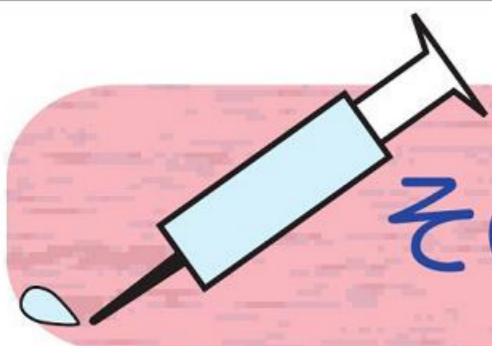


その3 検査

動物たちの血液やウンチなども健康状態を見るバロメーターになります。血液は機械を使って検査します。

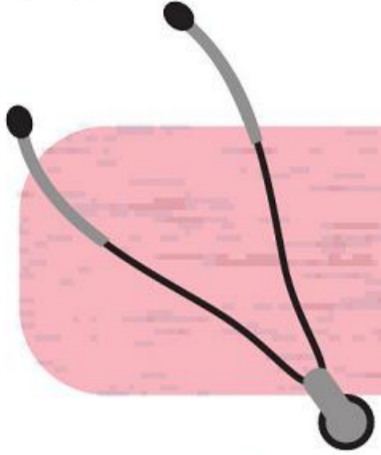


顕微鏡などの道具を使うことで、血液やウンチをじっくり調べることができます。そのほかにも、動物の体についているノミやダニなども見ることができます。



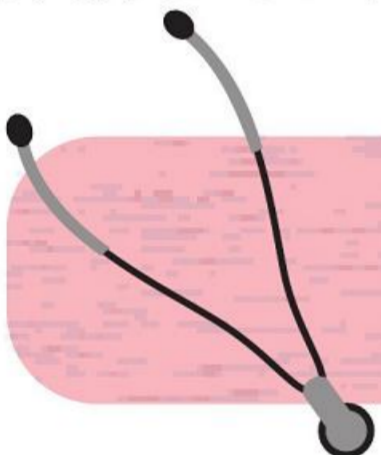
その4 アカゲザルの健康診断

毎年、秋に全頭を捕獲し、健康診断を行います。健康診断では体重測定、結核の検査（ツベルクリン検査）、駆虫薬（寄生虫を駆除する薬）の注射を全頭に行い、必要な個体には血液検査も行います。また、飼育管理のための個体識別処置（入れ墨やマイクロチップの挿入・確認）、繁殖抑制用のホルモン剤の挿入（インプラント）などを行います。



その5 解剖・標本作製

動物園では貴重な動物をたくさん飼育・展示しています。命ある動物を飼育している限り、必ず死はやってきます。死んだ動物たちがなぜ亡くなったのかを調べるために、解剖を行います。動物が亡くなった後の骨や皮や臓器も大変貴重なものです。臓器は死亡原因を調査するだけでなく、大学などで研究に用いられます。また、骨や皮は来園者の方に動物の違いや大きさ・触感を体験していただくために骨格標本や皮革標本として活用しています。



その6 教育普及活動

動物達の治療だけでなく、普段はおとぎの国を中心として、「なかよし教室」などの授業を行っています。人と動物がなかよく暮らせる社会を目指して、動物への接し方、触り方、動物の観察の仕方などを説明し、実際に動物に触れてもらう体験型の授業です。



その他にも、動物園の夏の一大イベントである小学生サマースクールと中学生動物園教室を行っています。毎年多くの児童に参加していただけていますが、参加者に少しでも楽しんで、様々なことを勉強・体験してもらえるように、教育普及担当や獣医師が中心となって企画運営を行っています。

今回は動物園獣医師の仕事の紹介をさせていただきましたが、実際働いてみて、仕事の幅広さを感じています。

例えば診療では、カエルなどの両生類からトラなどの大型哺乳類まで、実に様々な動物を診なければなりませんし、教育普及活動では、幼稚園児や小学生の笑いのツボを押さえ、楽しく学んでもらわなければなりません。こうしたことも最初は悩むばかりで大変でしたが、やはり動物の病気が治ったとき、子供達が動物の話しを笑顔で聞いてくれているとき、何物にも代え難いやりがいを感じます。これからも日々勉強しながら頑張りますので、よろしくお願いします。

ZOOスポット 74

42年間お世話になりました！

今回は、この3月で動物園を退職する細野弘次飼育係長にスポットをあててみました。

子供の頃から我が家には、イヌや小鳥、金魚などがいて、動物がいるのが当たり前の家庭でした。小学生の頃、図書館で読む本も動物関係ばかりで、その中には動物園の本もありました。高校生の頃には飼育員になることを決めていました。

これまで担当した動物は、キバノロ・レッサーパンダ・ラマ・アカゲザル・両生爬虫類などです。その中でも、両生爬虫類は20年あまり担当していました。今でもヘビが一番好きです！

飼育員をしていて一番嬉しいのが、なんと言っても繁殖に成功したときです。ビルマニシキヘビが当園で初めて繁殖したとき、大人の握り拳ほどある大きな卵を約30個生み、人工ふ化へ。ある朝卵を見ると、表面にいくつかの切れ目があり、そこから赤ちゃんが顔を出していました。しばらく仕事も忘れ、見惚れていました。



春にはもうじゅうワールドが完成します。長年動物園のリニューアルを待ち望んでいたため、新しく生まれ変わった動物園を早く見たいものです。

新生動物園に大いに期待してください。きっと今まで以上に楽しい動物園に生まれ変わっているでしょう。来園者の皆様には、何世代にも続く良い思い出を、いっぱい作って欲しいと思います。

できごと

「もうじゅうワールド」 工事進行中！

☆オランウータン・キジ・小獣の動物舎を解体し、「もうじゅうワールド」を建設中です。11月上旬には基礎工事が始まり、春のオープンを楽しみにしてくださいね。



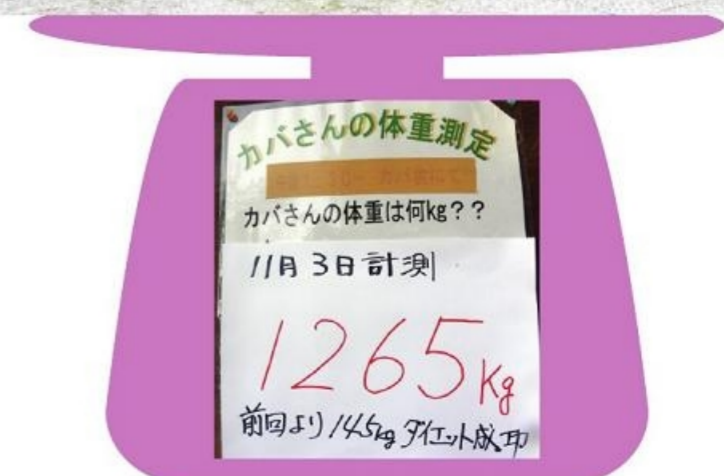
「10月19日
撮影」



「11月13日撮影」

ダイエット 成功！

☆11月3日にカバのツグミの体重測定を行いました。太り気味だった体重が見事145kgも減り、1265kgになりました！このまま体重をキープしてね！



旅立ち



☆グレビーシマウマのホタルがいしかわ動物園に旅立ちました。新しい土地で、元気に暮らしてくれることを願います。



☆ダチョウが多摩動物公園に、コンドルが那須どうぶつ王国に、コブハクチョウが登別マリンパークニクスに旅立ちました。

定期購読を希望される方は、80円切手4枚（1年分）を同封して京都市動物園までお申し込みください。

氏名又は名称：京都市長 門川 大作
事業所の名称：京都市動物園
事業所の所在地：京都市左京区岡崎法勝寺町126
動物取扱業の種別：展示

登録番号：070051
登録年月日：平成19年5月22日
有効期間の末日：平成24年5月21日
動物取扱責任者氏名：和田 晴太郎